



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

日本平和大会 in 三沢

10月22日23日の両日、青森県三沢市で「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地2016年日本平和大会 in 三沢」（主催＝同実行委員会）が開催され、延べ1500人が参加しました。

入門編 三沢基地って何やってるの？～若者の未来見据え



全労連青年部が企画・運営にかかわった「入門編 三沢基地ってなにやってるの？」と題した分科会は、安保破棄中央委員会常任幹事の小泉親司さんを講師に、米軍は何のために日本にいるのか、米軍基地をなくせるのかといった問いをテーマに学習、討論を行いました。

冒頭、平和大会の青森青年実行委員会より、三沢市と青森市で青年から集めたアンケートを紹介。三沢基地について、三沢では全員が「あり続けた方がよい」と回答。青森では多少分かれるものの、基地への肯定感情は大きいと報告されました。米

軍基地の役割が知られていないこと、もともと産業が乏しい中で基地撤去による雇用不安があり、それも含めて基地問題を考える必要があると提起されました。

小泉さんは、在日米軍基地の目的と実態に触れた上で、三沢基地が持つスパイ機能や核攻撃機能について紹介。爆音などの被害や基地の存在が市民経済に貢献はしておらず、経済発展を阻害していると強調しました。

参加者は班に分かれ、「米軍基地はなくせるのか？」をテーマに議論。「基地について話す機会がない。学習を深めながら気軽に話せる場をつくらう」「基地や原発施設を抱える自治体は相対的に財政は豊かだが、麻薬のようなものではないか」「基地に代わる発展方向は、これぞというアイデアがあるわけではない。しかし知恵を出し合うことでしか道は開かれない」などと討論。

小泉さんは「日本は103か所もの広大な米軍施設を抱える。基地国家のまま若者の未来はよいのか。憲法9条に基づく国づくりを、私たちが問いたださなければ」と呼びかけました。（文：日本平和新聞 2016年11月5日 写真：日本平和委員会）



「命を守れ」～平和へのねがいを訴え

閉会集会では自衛隊員を家族にもつ富山正樹さんが「何かしなければ絶対に後悔する。南スーダンへ、青森から若者を行かせてはいけない」と訴えました。安保破棄中央実行委員会の東森英男事務局長は、大会を通じて戦争法の具体化や憲法改悪の動きの根源にある日米軍事同盟をなくす重要性が深められたと強調。「激動の情勢のもと、学んだことを広げ、地域から劇的に幅広い共同の発展を勝ち取ろう」と呼びかけました。

閉会集会後のパレードでは若者を先頭に「命を守れ」「オスプレイいらない」と三沢基地周辺に平和へのねがいを訴えました。



高江いっせい行動宣伝@原宿駅表参道口前



2016年10月28日全労連青年部が事務局として参加する中央青学連が東京・原宿駅表参道口前にて高江いっせい行動宣伝を行いました。宣伝では沖縄統一署名を集めながらシール投票、メッセージボードでのメッセージ集めを行いました。

シールアンケートでは「Q1: 政府は、リパッドを建設しています。どう思いますか?」に

対して『賛成: 0人』『反対: 19人』。「Q2: 沖縄の米軍基地には日本の防衛任務はありません。この先、米軍基地をどうすべきだと思いますか?」の問いに対しては、『増やしていく: 0人』『なくしていく: 10人』『現状維持: 9人』という回答が得られ、対話の中で「オスプレイは知っている。ヘリパッド建設のことは知らなかったけど、騒音被害もあると思うから」(女性・専門学校生)「オスプレイもヘリパッドも知っている「反対」(女性・20歳・カメラマン)といった声が聞かれました。メッセージボードには『オスプレイ反対! (愛知・20歳)』『沖縄はステキなところだからがんばるんだー!! (東京・18歳)』『沖縄を守ろう! (東京・19)』『森をなくさないで!!』『観光地のイメージを崩さないでほしい!!』日本の未来を明るくするためにも沖縄だけの問題ではないみんなで考えよう!!』『森をなくさないでほしい!!』といったメッセージが寄せられました。

メッセージは沖縄と全国をつなぐプロジェクト「ゆいまーる沖縄」によせられた他のメッセージとともに横断幕に加工され11月26日に行われた安保破棄実行委員会の全国代表者会議の場で、現地・高江の伊佐さんに手渡されました。



憲法公布 70 周年～11.3 憲法アンケート



全労連青年部が実行委員として参加している若者憲法集会実行委員会は憲法公布70周年となる11月3日、東京・新宿駅東口にて憲法についてのアンケート調査を行いました。全労連青年部からは13人が参加しました。

アンケートでは「Q1.現在の憲法を変えるべきだと思いますか?」の問いに対して「変えるべき」「どちらかといえば変えるべき」との回答をあわせて27人(25.7%)で、「どちらかといえば変えるべきでない」「変えるべきでない」との回答が41人(39.0%)、「わからない」との回答が37人(35.2%)でした。「Q2.日本国憲法第9条について

どう思いますか?」の問いに対しては「変えるべき」「どちらかといえば変えるべき」との回答をあわせて14人(13.3%)、「どちらかといえば変えるべきでない」「変えるべきでない」との回答が64人(61.0%)、「わからない」との回答が27人(25.7%)でした。「Q3.南スーダンに派遣される自衛隊に、『駆けつけ警護』任務が新たに付与される可能性があることを知っていますか」に対しては「知っている」との回答が24人(22.9%)、「知らない」との回答が79人(75.2%)、無回答2人(1.9%)でした。アンケートに回答した人からは「今の政権・国会の人たちに任せるのは不安」「僕ら若い世代に関わってくることだと思うから。兵役(徴兵)イヤだなと思う」などの声が寄せられました。詳しい内容については若者憲法集会FB (<https://www.facebook.com/wakamonokenpou/>) からご確認ください



「Rights To Study～本物の奨学金のための学生緊急アクション～」

多くの学生が利用できる給付型奨学金の実現を目指す大学生らのグループ「Rights To Study」が11/18国会正門前で緊急アピールを行いました。奨学金を返済中の労働者は「親の看病をしたくても、休学すると奨学金をもらえなくなる、我慢するしかなかった、学費が払えないから夢を叶えられない人間を産まないで」と訴え、「学ぶ権利に利子をつけるな」「学費を下げろ」などコールしました。

